

平成30年12月12日16:20～教育実習報告会を実施しました。小幼コース・幼保コースの2会場に分かれ、4週間にわたる小学校教育実習・幼稚園教育実習について報告がなされました。実習の成果を確認し合うとともに、1、2年生にとっては実習に向けた意識を高める充実した会になりました。



教育実習報告会の様子



宮崎国際大学 教育学部ニュースレター

文部科学省による教職課程実地視察を終えて

教育学部長 福田 亘博



教育学部では、平成29年度に23名の第1期生が卒業し、平成30年度には36名の第2期生を教育現場等に送り出します。学生の頑張り和本学部の教員採用試験現役合格に向けた数々の教員採用試験対策講座や教科・教職自主ゼミ等が功を奏して、多数の現役合格者を出しました。

また、文部科学省が教育学部の設置目的としていつも指摘している教員就職率は、96%（平成29年度）でした。国立大学の平均が67.5%であることを考えると、本学の教育学部は、その設置目的を十二分に果たしているものと考えています。

また、一般行政職や保育職の公務員を希望する学生にはSPI試験及び教養試験の対策講座を直ちに立ち上げた結果、多数の合格者を出すことができました。その他、就職を希望する幼保コースの学生はすべて認定こども園等に就職が決定しています。このように本学部は、就職に強いと標榜してきた宮崎国際大学国際教養学部の伝統を脈々と引き継いでいます。

さて、今回は、文部科学省による教職課程認定大学等実地視察結果を簡単にご報告します。教育学部では学部設置後、毎年文部科学省へ履行状況報告書を提出します。履行状況では設置申請した時の教職課程（組織・体制・FD等）について維持・向上に努めていることを報告しますが、完

成年後この報告の確認を実地視察で行います。なお、文部科学省の実地視察はその後にも教職課程の維持・向上に努めていることを再確認するために行われます。

実地視察の結果、上記のとおり教職課程を維持・発展させつつ、高い教員採用試験現役合格率・教員就職率を達成しており、最大限のお褒めの言葉を頂きました。なお、幾つか改善点を指摘されましたが、大学・学部として直ちに対策を講じました。

以上のように、今回文部科学省の直接的な実地視察により、本学部は教職課程の維持・発展に努めていることが確認されましたので、これを糧に現体制を益々充実・発展させていきたいと考えています。今後とも本学が掲げる「礼節と勤労」の教育理念のもと、学生諸君の教員や公務員になりたいという希望が確実に達成できるように、教職員が一丸となって支援していきたいと思えます。

目次

文部科学省による教職課程実地視察を終えて	1
第2期生の卒業を心から祝福します	1
学生の声	2
教育学部幼保コースの進路と4年制大学で学ぶ意味	2
4年生（第2期生）へのインタビュー	3
卒業委員会より	3
卒業論文発表会を終えて	4
卒業論文発表会の講評	4
入試広報室より	4

第2期生の卒業を心から祝福します

学生教職支援センター長 釋迦堂 幾則



4年生が参加して緊張感のある講座にしてくれたことが特

第2期生の皆さんは、1年次から教員・保育士採用試験合格に向けて、特別対策講座や保育ゼミ、理数ゼミ等の本学独自のオプション教育プログラムの学修に挑み続けてきました。決して諦めずに励ましあいながら夜遅くまで粘り強く試験勉強をする姿や3年生対象の教員採用試験対策講座「応用I」に10名以上もの

に印象に残っています。そうした自ら問うて学ぶ姿勢や頑張りや、たくさんの現役合格につながったのではないかと思います。

教員や地方公務員、保育士、民間企業の社員、大学院進学など一人一人道は違いますが、本学での学びや出会い、そして友との絆を大事にして、たくましく生きてほしいです。時には困難もあると思いますが、相手や課題ときちんと向き合い、真摯な姿勢で乗り越えてください。皆さん一人一人の活躍を心から期待しています。

卒業生の声

自分のこれからの課題と後輩へ向けて

教育学部4年 赤崎 遼一郎
(宮崎県立都城西高等学校出身)



教員採用試験を受けるにあたり、自分が一番苦労したのは一次試験の勉強でした。教員採用試験に出題される問題の範囲は膨大で、どこから手を付けてよいかわからず混乱しました。昨年先輩方も同じようなことをおっしゃっていましたが、もっと早くから取り組んでおけばよかったと心から思いました。

幸いにも教員採用試験には合格しましたが、自分の知識量が教員として十分に足りているかといえば決してそうではありません。二度と同じ轍を踏まないよう今回の経験を忘れずに教員になっても研究と修養に励んでいきたいと思えます。

普段の様子を見ると今の教育学部3年生たちは自分などよりもよっぽど積極的に物事に取り組み、学ぶことができていると思えます。このまま頼れる最上級生として卒業までの残り1年を突き進んでほしいと思えます。

教員になっても、研究と修養に励んでいきたいと思えます。

夢実現に向けた4年間

教育学部4年 日吉 爽
(宮崎県立宮崎西高等学校出身)



この度、宮崎市の保育士・幼稚園教諭採用試験に合格することができました。この結果は、納得できるまで何度も試験対策をしてくださった先生方をはじめ、共に励まし合い勉学に励んだ友人、家族の協力、4年間の日々の充実した授業あつての結果だと思っています。

特に、授業の中では、現場で働いている先生方の講義をお聞きしたり、園や施設等に何度もフィールドワークに行かせて頂いたりする機会がありました。現場での生の状況や声を踏まえた授業が多く、充実していたと感じています。また、一つの課題に対して皆で議論し合ったりすることで、一つの視点からだけでなく、多面的な考え方もできるようになりました。試験対策は勿論ですが、このように日々の充実した授業を試験で生かすことができたと思えます。

これから保育教諭として授業での学びを生かし、常に学び続ける姿勢を忘れず努力していきたいです。

日々の充実した授業を生かすことができたと思えます。

周りに支えてもらった4年間

教育学部4年 鳥原 麻友子
(宮崎県立宮崎大宮高等学校出身)



私が宮崎市職員の道を考え始めたのは、2年生の頃でした。進路についてはたくさん悩み、葛藤しましたが、早い時期に自分の進む道を定めて行動に移すことができたことが、この合格につながったと思っています。3年の秋から大学とは別の専門学校に行き始め、教育実習や大学の授業と並行して勉強するのはとても

苦労しました。

しかし、教員採用試験に向けて頑張るみんなの姿や、目標は違っても一緒に頑張ろうと言ってくれる友人たちの言葉のおかげで、最後まで頑張ることができました。また先生方にも、進路相談や面接練習など、様々な面でサポートしていただきました。周りの人の支えがあって、今があります。今後は、教育学部生として培った学びや経験を生かして、行政の立場から宮崎の教育に携わっていききたいです。

目標は違っても一緒に頑張ろうと言ってくれる友人たちの言葉のおかげで、最後まで頑張ることができました。

教育学部「幼保コース」の進路と4年制大学で学ぶ意味

教育学部准教授 相戸 晴子

幼保コースの第2期生は、4年間の大学生活を終え、この4月からそれぞれの進路先で社会人としてスタートを切ります。進路先は、本人が希望した宮崎県内の民間の認定こども園・幼稚園・保育園の保育教諭、また、宮崎市や都農町など公務員として公立幼稚園や保育園に勤務する保育教諭、さらに今年は教育学部設置後初めて大学院に進学し子どもの教育や保育についての研究を目指していく学生もいます。その進路は、いずれも各々が自分の目標に向かって努力を重ね、それを支えた大学と教員のバックアップ体制があったかからこそ達成できた成果だと思えます。

入学当初の幼保コースの学生は、短期大学でも幼稚園教諭二種免許状や保育士資格が取得できることから4年間の時間とお金を投資して学ぶ意味がまだ見いだせていない様子でした。しかし、4年間の大学生活において、自ら課題に気づき、学び、動き出すことを繰り返していくことによって、夢を見出し、そこに向かって努力を重ね続け、卒業時希望する進路に近づくことができたのではないのでしょうか。

これからも学生の「自己実現=夢」を支える教育学部幼保コースの学びの文化を創っていききたいと思えます。

学生企画

4年生(第2期生)へのインタビュー

4年間の思い出や宮崎国際大学の良さについて話していただきました

大学祭

山崎：みんなと一緒にというのはやっぱり大学祭かな。

畑中：山崎さん、人一倍頑張っていたね。

脇元：走り回っていた!

山崎：実行委員は同じ学年だけでなく、後輩、外部の人や、学部が違う人とだったので、なかなか思うように進まず、苦しいときもあったけれど、自分の力になったと思う。そういう経験はやっぱり思い出になる。実習もそうで、少し辛いことがあってもそれを乗り越えたことが思い出として残っている。

畑中：僕は3年の時、屋台部担当だった。屋台部は決して目立つ部署ではないけれど、朝6時半に大学に来て準備など頑張った。この年は台風接近で大学祭が1日になったから、ずぶ濡れで一生懸命テントを片付けた。

脇元：雨よけに透明なシートをテープで貼っていたね。

畑中：そのテープを貼るという作業が、楽しかった。

脇元：そうなんだ(笑)。

畑中：目立たないことだけど、達成感があった。

合唱

脇元：一番印象的なのは合唱。授業の一環で、クラス全員で取り組んだ。終わった後すごくまとまったと思う。

畑中：そうだね。ジョイントコンサートという目標があったからとても頑張ったという思いがある。楽しかった。

山崎：そうだね!頑張った。



畑中 心生
(宮崎学園高等学校出身)

目指す教師像

笑顔で学校生活が送れるような先生



脇元 陽菜
(宮崎西高等学校出身)

目指す教師像

先生と子どもとの距離が近い、メリハリのあるクラスづくりができる先生



山崎 あこ
(日向学院高等学校出身)

大学院進学後の目標

将来を見据えて、今を楽しむ。目の前のことを全力でやる。



先生の存在

脇元：先生方にも恵まれていたね。

山崎：それはすごく大きい。

脇元：国際大の先生はとても親しみやすい。

山崎：先生方と距離が近いのはアドバイザーの先生の存在が大きいかな。

畑中：国際大は4年生になるまでゼミがないけれど、アドバイザーの先生がいるから悩みなど、何でも相談できた。

やりたいことが実現できる

脇元：国際大は、やりたいことをかなえられると思う。学生主体という感じが、高校と違う。企画書を書いて、見積もりを取りに行くという作業をたくさんした。

畑中：教育学部独自のイベントがあった。運動会や栄養会などのイベントがあるのも、1期生の先輩方が企画してくださったから。

脇元：企画を伝統として受け継いでくれる後輩がいるのもこの大学の良さだと思う。そして、やりたいことに対して、協力してくれる先生方がいるのがうれしい。

インタビュアー

教育学部3年 原田 結月・桐木 千賀子

先輩方が4年間の思い出を楽しそうに話してくださる姿を見て、私たちも残り1年となる大学生活を有意義なものにできるように1日1日を大切にしたいと思いました。

卒業委員会より

4年間の大学生活も終盤となり、いよいよ第2期生の旅立ちの日が近づいています。現在、卒業委員会では、アルバム作成や祝賀会などの計画を進めており、卒業まで残りわずかであることを実感しているところです。卒業生全員の思い出に残ることはもとより、先生方への感謝の気持ちが伝えられるような祝賀会となるように、役員一丸となって話し合いを重ねています。そして、先生方や仲間たちと、笑顔で卒業式を迎え、思い出話に花を咲かせたいと思っています。

(教育学部4年 山崎 あこ)



委員会の様子

平成30年度 卒業論文発表会を開催しました

卒業論文発表会を終えて

教育学部4年 清田 瑞穂
(広島県 瀬戸内高等学校出身)



卒業論文発表会を振り返ると、様々なことを経験できたと感じています。ゼミの学友と意見を交わしながら内容を深め、初めての人にも伝わる文章となるよう努力することを通して、思考力や文章表現能力は1年前と比べ大きく成長したと思っています。

卒業論文は一人で書き上げるものだと思っていましたが、学友のアドバイスとゼミの先生のご指導の基で成し遂げられるものだと分かりました。実際に発表の質疑応答後も先生からご指導を頂きました。最後まで学友や先生は、私の論文をよりよくしようと励まし、意見を伝えてくれています。発表は終わりましたが、論文の完成に向けて、最後まで努力を続けたいと思います。

卒業論文(卒論)発表会の講評

教育学部長 福田 亘博

昨年に引き続き、今年も卒論発表会を1月29日(火) 9時~16時半に実施しました。卒論は教育学部のカリキュラムの中で「課題探求型教育の集大成」の科目として位置づけられており、4年次の1年間をかけて履修しました。卒論研究の題目・内容は多岐にわたり、興味深いものばかりでした。発表時間は8分、質疑応答は2分半と短い設定でしたが、学生は1年間にわたる卒論研究の成果をわかりやすく、また制限時間内に発表しました。最後に教員や学生からの質疑応答にも簡潔に回答していました。

卒論の目標は学生が卒業後教員・保育者となり、関連する研究会等で発表したり、論文等に投稿できる能力を身に付けることを掲げています。発表された卒論の中には、そのまま研究会等で発表できるレベルの高いものもありました。学生の皆さんは、卒業後本学部で学んだ知識・技能等を糧に、常に謙虚・真摯に学び続ける姿勢と教育実践力で活躍して頂くことを祈念しています。

宮崎国際大学

〒889-1605 宮崎県宮崎市清武町加納丙1405番地

電話: 0985-85-5931

FAX: 0985-84-3396

ホームページ: <http://www.mic.ac.jp>

国際教養学部 比較文化学科
教育学部 児童教育学科



宮崎国際大学

オープンキャンパス

□開催日: 7/21、8/18

□内容: 学部説明、体験授業、卒業生・在学生体験発表、学食体験、個別相談会 など

※日程等の詳細は決定次第本学HPにてお知らせします。



週末キャンパス見学会 & 相談会のご案内

オープンキャンパスまで待てない! オープンキャンパスには都合が悪くて行けない! そんな受験生と保護者のための「週末キャンパス見学会」です。

□開催回数: 年8回 (日程等の詳細は本学HPにてご確認ください)

□内容: 学部説明、入試相談、AO・推薦対策講座

オープンキャンパス、週末キャンパス見学会の他にも臨時の見学会や説明会を受付けております。

ご希望の方は事前に入試広報室までご連絡ください。

お申込みは
こちらから



入試情報



学生募集要項
(PDF)



お問い合わせ

入試広報室 0120-85-5931
admissions@sky.miyazaki-mic.ac.jp